平成２９年８月３１日
東海三県地盤沈下調査会

地盤沈下沈静化も、高まる自然災害に備えて継続的な観測・監視が必要
～平成28年における濃尾平野の地盤沈下状況等とりまとめ～

東海三県地盤沈下調査会※は、平成２９年８月２９日に東海三県地盤沈下調査会　評議会を開催し、平成２８年における濃尾平野の地盤沈下および地下水位の状況等についてとりまとめましたので、お知らせします。

※東海三県地盤沈下調査会とは、愛知県・岐阜県・三重県における地盤沈下の実態と原因の調査究明、および各関係機関相互の連絡調整をはかることを目的に、関係行政機関の職員および学識経験者をもって構成される組織である。

【主な概要】

- 平成２８年に水準測量を実施した水準点の総数は９０３点であり、年間1㎝以上沈下した水準点は４点あったが各々単独であり、平成１９年度以降、１０ヵ年連続で沈下域は形成されなかった。
- 地下水位の経年的な傾向については、昭和５０年代前半より回復（上昇）傾向に転じ低下・上昇を繰り返しながら、近年は横ばい傾向にある。
- 最近５ヶ年（平成２４年～平成２８年）では、沈下しやすい軟弱な粘土層が厚く堆積している濃尾平野中西部に累積沈下量が大きい地域が分布しているものの、これらの地域でも沈下量は年間１㎝程度と緩やかである。
- 当地域の地盤沈下は沈静化してきているが、自然災害の潜在的危険性が高い地域であるので、地盤沈下状況の観測・監視ならびに地盤沈下対策を継続して行う必要がある。

□　配 布 資 料：
・【概要資料】平成２８年における濃尾平野の地盤沈下の状況

□　添 付 資 料：
・【別添1】平成２８年における濃尾平野の地盤沈下の状況
・【別添2】地盤沈下等量線図

□　配　布　先　：　中部地方整備局記者クラブ

問い合わせ先：
東海三県地盤沈下調査会　事務局
・国土交通省　国土地理院　中部地方測量部　測量課　測量課長　塩見（しおみ）　和弘（かずひろ）
ＴＥＬ：０５２－９６１－５６４６（直通）
・国土交通省　中部地方整備局　河川部　河川計画課　課長補佐　細野（ほその）　貴司（たかし）
ＴＥＬ：０５２－９５３－８１４８（直通）

【概要】 平成28年における濃尾平野の地盤沈下の状況　とりまとめ
①地盤沈下の状況

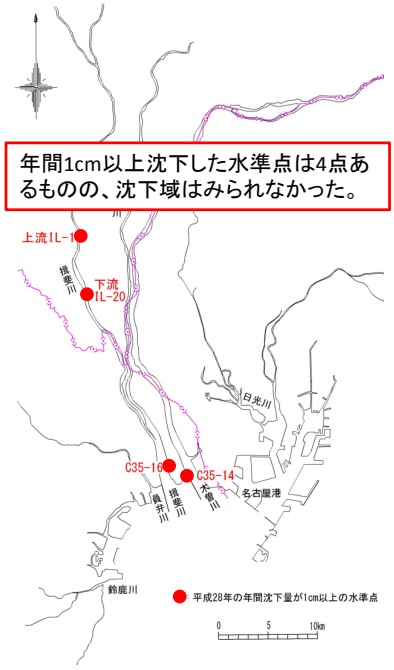
東海三県地盤沈下調査会

平成28年に水準測量を実施した水準点の総数は903点であり、年間1cm以上沈下した水準点は4点あったが各々単独であり、平成19年度以降、10ヵ年連続で沈下域※は形成されなかった。

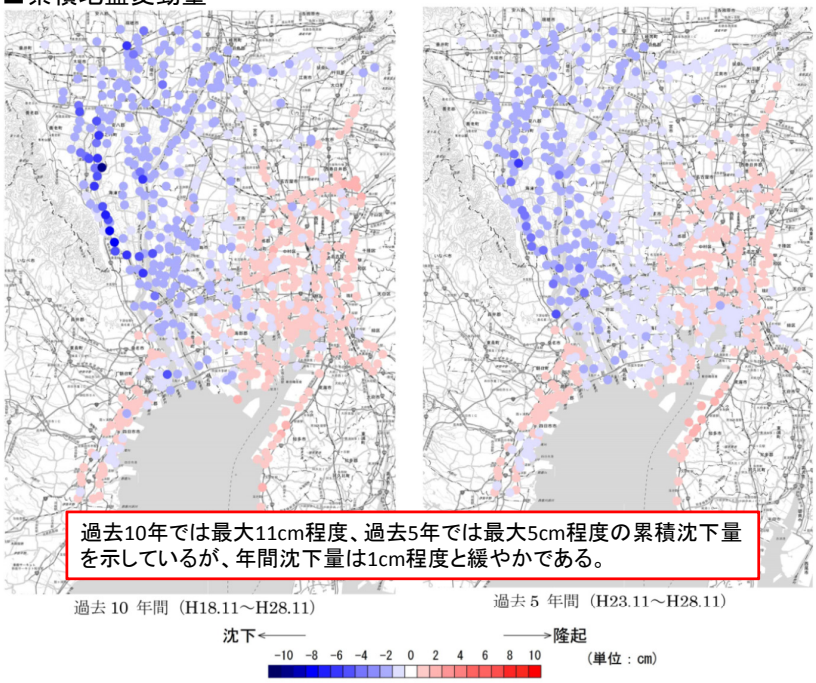
また、沈下しやすい軟弱な粘土層が厚く堆積している濃尾平野中西部に累積沈下量が大きい地域が分布しているものの、これらの地域でも沈下量は年間1cm程度と緩やかである。

※沈下域とは、年間沈下量が1cm以上の水準点が3点以上隣接する地域である。

■年間沈下量1cm以上の水準点



■累積地盤変動量

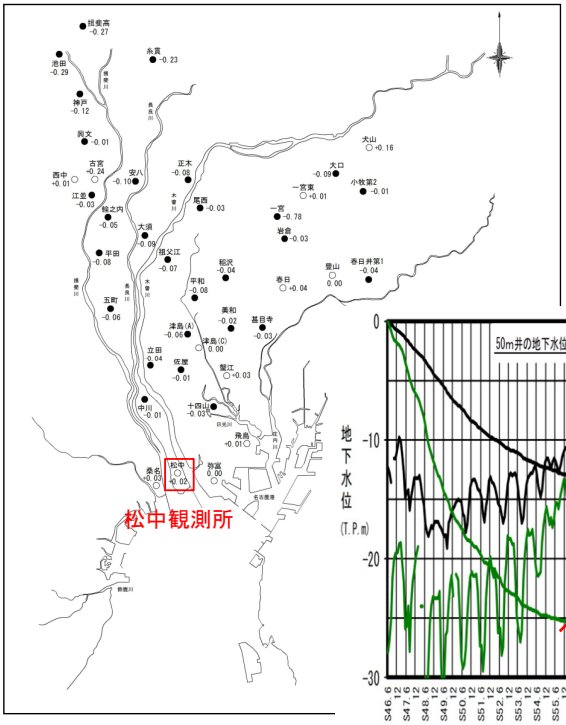


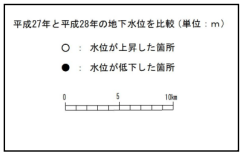
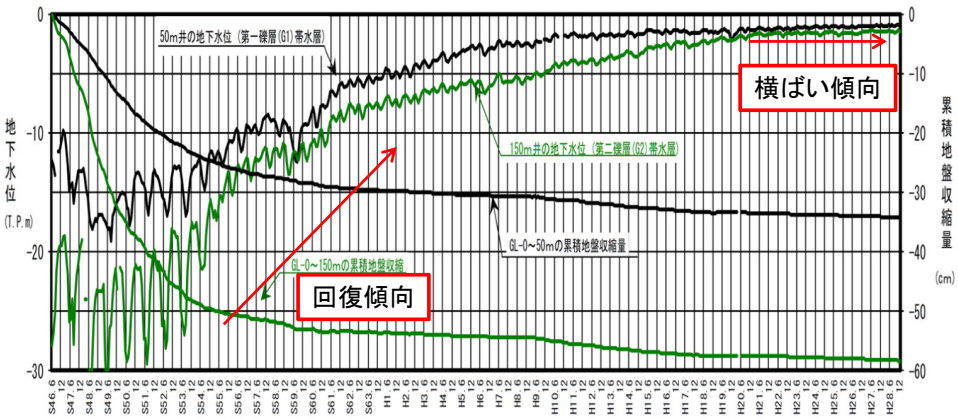
【概要】 平成28年における濃尾平野の地盤沈下の状況　とりまとめ
②地下水位の状況

東海三県地盤沈下調査会

平成28年は94箇所において地下水位を観測し、地下水位の経年的な傾向については、昭和50年代前半より回復（上昇）傾向に転じ低下・上昇を繰り返しながら、近年は横ばい傾向にある。

■年平均地下水位の変動量（第一礫層（G1））





■松中観測所の地下水位・地盤収縮量の変動